

8月15日 年金支給日宣伝行動

「物価上昇を上回る年金額」を求め 大塚駅前で署名・宣伝行動



中央本部は15日、猛暑のなか大塚駅前で、物価高騰に見合う年金額引き上げを求めて、横断幕やプラスターを掲げ、元気よく年金支給日宣伝行動を行いました。

杉澤隆宜委員長は、日本がアジア・太平洋戦争に敗北して、きょうで78年です。この戦争で310万人以上の日本国民の命を奪いました。アジア・太平洋地域の各国では2000万人以上が犠牲となりました。岸田政権は敵基地攻撃能力の保有と大軍拡路線を推し進めています。戦争する国づくりではなく、憲法9条を生かした政治に転換すべきです。年金者組合は、「軍事費を削って社会保障の充実を求めて運動していきます」と訴えました。

年金者組合員が配布するビラや「年金引き上げなどの改善と安定した雇用の実現を求める署名」に協力してくれた高齢の女性は「食料品、雑貨、公共料金すべて値上がりしているのに、なぜ年金を0.6%も下げるのか、納できません」と怒りの声を上げていました。ある男性は「医療費も年とともに増えています。これ以上国民をくるしめるな!」と訴えています。また、渋谷から来た女性は「物価があがるのに、年金は下げ、医療費は上げて、その上介護まで改悪するなんて許せません」と話しています。

総務省が7月21日発表した6月の消費者物価指数3.3%上昇し、生鮮食品を除く食料は9.2%も上昇しています。政府が言っている物価変動率2.5%は高齢者、消費者の生活実態からはかけ離れています。私たちの生活実感から言うと10%以上の物価高です。

国民年金法第4条は、「年金額は、国民の生活水準その他の諸事情に著しい変動が生じた場合には、速やかに改定の措置が講ぜられなければならない」となっています。国民年金法第4条に基づき直ちに年金の増額改定を行うべきです。

今日の宣伝行動では、木田保男書記長、小澤満吉副委員長、田中諭書記次長、増子啓三中央執行委員が訴えました。